

FA153CB-22~24

No. 647-P1/3

取扱説明書

エアークリッパ

型番号：BN-2701A 8A~15A



エアークリッパをご採用頂きありがとうございました。
ご使用に際しましては本書をよくお読みの上、正しくご使用ください。

安全に使うための表示

使用、保守、点検、分解の前に必ずこの取扱説明書を読み、次の表示、図記号の意味をよく理解してからご使用ください。

表示 表示の意味



「取扱を誤った場合に危険な状況が起こり、人が障害を負う可能性、又は物的障害が発生する可能性があること」を示します。

図記号 図記号の意味



「特定の条件において破裂の可能性、注意を要すること」を示します。

●使用・取付について

使用時の注意

- 使用圧力は1.0MPa以下で使用してください。
- 取付場所は直射日光の当たらない所、又シンナー、トリクレンなどの有機溶剤の雰囲気中での使用は避けてください。ケースが割れて危険です。

●仕様

呼び口径	8A	10A	15A
配管接続口	Rc1/4	Rc3/8	Rc1/2
使用流体	空気		
使用圧力範囲	0.05~1.0MPa		
耐圧力	1.5MPa		
濾過度	40μ		
周囲温度範囲	5~60℃		
※最大流量	1.5Nm ³ /min	2Nm ³ /min	2.2Nm ³ /min
製品重量	0.7kg		

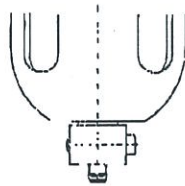
注意1：※最大流量は入口圧力0.7MPa、差圧0.03MPaの時の流量です。

●取付

- 取付方向はいずれもエアフィルタ本体上部の矢印方向に空気が流れるようにしてください。
- 取付姿勢は必ずドレン排出口が下になるようにしてください。
取付位置は圧縮空気の温度が低くなる場所で、又、管路の低いところとしてください。
- 配管の前には配管内を十分フラッシングして、固形物やシールテープ破片が入らないようにしてください。
- 空気流速が極端に遅いときはエアフィルタの機能が低下します。
管路内の流速は20～30m/秒程度が適当ですから、使用条件に合わせた接続口径の物を用いてください。
- 保守点検に便利なように周囲に余裕空間を設けてください。

●ドレン排出

ラインに空気圧のあるときは、ドレンバルブ操作で銘板のDRAIN LIMITに達するまで排出してください。DRAIN LIMIT以上にドレンが溜まると、ライン内流出、除湿機能の低下などの原因となりますので注意してください。操作はドレンバルブのプッシュボタンの太い方を水平に押すとドレンの排出が出来ます。又、ラインの空気圧が0.05MPa以上になればドレンバルブが開き、自動的にドレンが排出する機構になっております。



●その他の注意事項

▲ その他の注意 ▲

- 製品を落とさないこと。また当てたり、たたかないようにしてください。
ケースにヒビ割れが生じると破裂します。

このエアフィルタは空気圧ライン中の水分、配管の錆などの異物を取り除くための物です。空気圧以外の流体での使用は避けてください。

●保守点検

▲ 保守点検時の注意 ▲

- 分解するときは、必ずエアフィルタと配管内の圧縮空気をすべて抜いてから行ってください。圧縮空気が残っていると勢いよく漏れ出し、部品が飛び出す危険があります。
- 再組立の時はクランプリングを《S》の方向(右側)に止まるまで回してください。
途中で止めたままにしておくとケースが外れて危険です。

◆ケースの着脱

圧縮空気をすべて抜いてから、クランクリングを少し持ち上げたまま《0》の方向(左側)に45°回すと分解できます。

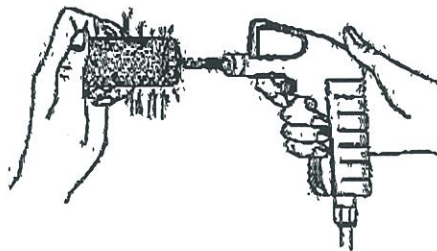
◆ケースの装着

ケースガスケット(Oリング)がボディ側に装着されていることを確認し、クランクリングを少し持ち上げたまま右に止まるまで回してください。

途中で止めたままにしないでください。

●エレメントの清掃

エレメントは清掃洗浄すると再使用が可能です。使用中エレメントが目詰まりし、出口空気圧が低下します。一次側と二次側の差圧が、0.07MPa程度になると分解をしてエレメントを洗浄してください。空気流路はエレメントの外側から中側に入って濾過されますので、清浄なエアで図のように中心に向かって吹き付け洗浄してください。



●部品洗浄

金属製部品についてはシンナーやトリクレンなどの溶剤を用いられても差し支えはありません。金属製以外の部品については鉱物性の軽油や中性洗剤など洗浄してください。洗浄後は溶剤をよく落としてから再組立を行ってください。

お願い

この取扱説明書をお読みになった後は、手近なところに保管してください。